

室城秀之著

『百合女子大学図書館蔵「住吉物語」本文と注釈』

『細井貞雄著 うつほ物語玉琴』

佐藤 信 一

両著とも、室城先生の日頃の研究成果を示す注釈である。私自身も両著にいささか立ち会ってきた経緯があるので、その事を紹介しておきたい。

『住吉物語』は、室城先生の受けた平成九年度百合女子大学研究奨励費の成果である。本学大学院生の稲田路子・大森澄子・田中麻美氏が協力している。そもそも成り立ちに関して言えば、その淵源は、室城先生が数年来続けて来られた国文学会の、学生が参加する研究会にあるものと思しい。最初は「枕草子」から始まった。二年目に「落窪物語」を手がけた。次の年に主として新大系で「住吉物語」を読んでいたのである。「落窪」以降は、継子物語を読むと言う合意があったと記憶している。金曜日の五時限に第二国語国文学研究室で注釈について熱っぽく語り合った日々だった。それがこのようにして、注釈書として結実したのである。その刊行を祝わずにはいられない。

ただ、翻って考えて見る時、どうしてこの著作の発表の場が、本学の紀要でないのだろうかと言う疑問に到達する。勿論、現行の四百字詰原稿用紙四〇枚と言う制限では、到底本書は収ま

るまい。しかし、いやしくも大学の紀要であるならば、そのような字数制限を取り払ってでも、収蔵資料の紹介に努めるべきなのではないだろうか。

また、この底本の「住吉物語」であるが、そのマイクロフィルムは本学には所蔵されていない。国文学研究資料館にあるのである。もともと本学の図書館の貴重書なのだから、再度、撮影をすべきではないか。貴重書は、撮影の業者を選定して順次マイクロ化していくのが、当然と思われる。素人の写真撮影は、たつた一つの原本を損う危険があろう。

さて、内容の紹介に移りたい。〈翻刻編〉と〈解釈本文編〉からなる。〈翻刻編〉では底本が忠実に翻刻され、原本の様態が手に取るようにわかるよう、さまざまな工夫がこらされている。〈解釈本文編〉では濁点を補い、句読点・カギカッコを付し、漢字を当てている。内容で章段が分けられ、物語の展開が分るように見出しがつけられている。また、各章段毎に出典の注が施されている。凡例では「現行の諸注釈書に負う部分が多い」とするが、新見が多く見出せる。何よりもこの本は通説に至便である。他の「住吉物語」の本を底本にした注釈と比較しても、本学所蔵の「住吉物語」が引けを取らないことが証し立てられたと言つてよからう。

ただ瑕瑾をあげつらえば、七八頁【二〇】「人には言はで」の注に「堀河百首」「濡れ衣といふにつけてや流れけむあぶくま川の名こそ惜しけれ」とあるのは、前の「あぶくま川の名のみして」に施された注と重なっている。【四四】「あはれも知らぬ岩木なりとも」の注に引かれる「白氏文集」四「人非木石、

皆有情」は、「李夫人」の末尾「人非木石、皆有情、不_レ如_レ不_レ遇_レ傾城色」であろう。詩の題名と対句を成す句は、引用されてしかるべきではないか。【五三】の本文の七行目「やや久しくありてのたまやう」とあるのは、「のたまふやう」の誤り。〈翻刻編〉では「のたまふ」に作る。

しかし以上述べてきたことも、本学所蔵の「住吉物語」を読める形にした功績をいささかも揺るがすものではない。本学はこのような素晴らしい本を所蔵しているのである。

次に「細井貞雄著 うつほ物語玉琴」に話を移したい。この本は平成九年度の国文学研究資料館共同研究「うつほ物語の基礎的研究」の成果である。共同研究の構成員は、室城秀之、上原作和、江戸英雄、大井田晴彦、正道寺康子、中山陽子、宮谷聡美、稲員直子、稲田路子、斎藤真路、佐藤信一である。この中で稲田路子は、前出の通り、本学の大学院生。

細井貞雄は国学者。著作に「宇津保物語玉松」、山岡俊明との共著である「宇津保物語二阿抄」がある。「うつほ物語玉琴」は巻一、二が文化十二年刊の版本で流布している。中野幸一氏編の「うつほ物語資料」(武蔵野書院、一九八一年)に影印が、鷺山茂雄氏「翻刻・宇津保物語玉琴(一)」「並木の里」七、一九七二年(二月)、及び「翻刻・宇津保物語玉琴(二)」「並木の里」八、一九七三年(二月)に翻刻があるが、注釈にまで及ぶものはなかった。

今回、底本にしたのは室城先生所蔵の版本の一本である。それをもとに、まず翻刻を作成し、釈文を作り、注釈を付けて行く。そして輪読形式で、各自が発表したものを叩き台にして、

作成された。厳しい討論の上に創り上げられた注釈なのである。評者も参加した共同研究なので、この書に対する公正な評価は下し難いが、その完成には、纏め役である室城先生、国文学研究資料館の江戸氏、大東文化大学人文科学研究所の上原氏の力が大きかったものと思惟する。この共同研究は現在も継続中であり、新たな成果が期待される。

〔白百合女子大学図書館蔵「住吉物語」本文と注釈〕一九九八年三月一日刊 A5判 一三五ページ 私家版／「細井貞雄著 うつほ物語玉琴」一九九八年二月十二日刊 A5判 一五五ページ 国文学研究資料館